

保存的治療により精巣を温存しえた精巣区域梗塞の 1 例

西尾 英紀（名古屋市立大学大学院医学研究科 小児泌尿器科学分野）

この度は、大変栄誉ある学会賞を頂きまして、誠にありがとうございます。

私の発表は、精巣捻転の疑いで紹介となった患児を、カラードプラ超音波で精巣区域梗塞と診断し、緊急試験開放手術を行うことなく、保存的に治療したという内容でした。

紹介時に左精巣は疼痛を伴い、固く腫大し、カラードプラ超音波で左精巣の血流は認めるものの乏しかったのですが、左精巣上体も腫大し、その血流はかなり亢進していました。これらの所見は、精巣捻転とは考えられず、精巣上体炎に伴う精巣区域梗塞と診断し、保存的に治療することができました。

代表的な画像検査のなかで、CT・MRI は撮像範囲のほとんどの所見が断層データとして残ります。しかし超音波検査は、簡便で低侵襲ですが、局所的で特徴的な所見のみをその施行者が残します。すなわち、超音波検査の結果は、施行者の診断技術に依存します。

私は当院の救急外来などで急性陰嚢症のファーストタッチを経験する機会に恵まれました。自分自身でカラードプラ超音波検査を行って急性陰嚢症の鑑別診断のみならず、疼痛の原因精査を行うように心がけて参りました。これは第 30 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会（金子一成会長）で催行されたハンズオンセミナー（精巣エコーと経会陰エコーの手技と読影法：藤井喜充講師）で、実践的な手技を学んだことが役に立っています。

これからも一人一人の患者さんに真摯に向き合い、最善の医療を行うことができるように努めてまいりたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。